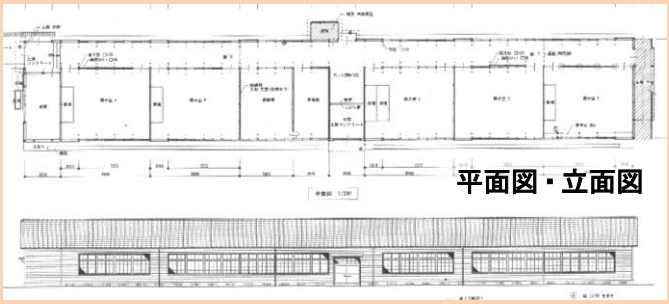
国登録有形文化財　　平成 28 年 2 月 25 日登録

豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）：建築物
１棟/多米町字滝ノ谷 34-1-1/木造平屋建、瓦葺、建築面積 618 ㎡/昭和 19 年/豊橋市

豊橋市民俗資料収蔵室本棟及び西棟は、いずれも小学校の校舎として建てられた建物で、豊橋市内に残る唯一の木造校舎となっています。昭和 51 年３月に多米小学校が現所在地に移転すると、旧本校舎と旧西校舎の建物は民俗資料の展示や収蔵のための施設に用途変更され、昭和 53 年５月から豊橋市民俗資料収蔵室として開館しました。


平面図・立面図

豊橋市民俗資料収蔵室本棟は、敷地の中央やや北側に位置し、南面する木造平屋建切妻造の建物で、玄関、廊下、展示室Ａ～Ｅ（旧教室）、展示室Ｆ（旧職員室）、管理室（旧応接室・校長室）、倉庫（旧土間）、土間からなります。

建物基礎は外周ほか一部コンクリート布基礎で、規模は東西桁行 61.812m、南北梁間 9.999m（桁行 34 間、梁間５間半）を測ります。

建物は在来軸組工法ですが、現在の建築基準法（昭和 25 年）が施行される前の基準で、展示室Ａ～Ｅ（旧教室）の広さ 9.09m×7.27mは昭和 18 年の（臨時日本標準規格）国民学校建物に示された教室の広さと近似しています。また、資材調達が難しい戦時下にあって努力と工夫された代用品の痕跡が見えますが、転用材は使用されておらず比較的良質な木材が用いられています。

全景

教室の様子

小屋組み工法は、キングポストトラス組みで、室戸台風（昭和９年）後に学校建築に取り付けが標準化された「方杖（ほうづえ）」が採用され、柱材は４寸半角（桧材）を基本とし、一部に５寸角（桧材）が使用されています。軸組は竹小舞下地、土壁塗りで、当地方では学校建築においても土壁塗りが主流でした。また、間仕切りや壁などは真壁仕上げで、補強用の筋違も多く確認できます。外壁は、鎧下見板張で当時の趣を残しています。

廊下の様子

屋根は桟掛瓦葺き（日本瓦、土居葺き）で、軒先は垂木現し。各部屋の出入り口や窓は木製引違ガラス戸で、大部分のガラスはフロートガラス製法以前のものです。なお、ガラス面には「タメ」という文字が刻まれており、盗難防止のため水晶で一枚一枚に大きく記したようです。